

福井市羽坂林道における里山の自然 ～ 身近なフィールドの楽しみ方 ～

柳町 邦光

Satoyama Nature on Hazaka Woody Path in Fukui City
～ Enjoying the Fields Nearby ～

Kunimitsu YANAGIMACHI

(要旨) 身近な自然に親しみ新しい気づきと自然界での体験を通して、豊かな心と身体の健康づくりに役に立つことへの一助となり、更に諸先輩の研究報告に目を向けることで、その内容を奥深く知ることにもつながる。これらの研究報告は専門分野であり、なお且つその最先端の事象であるが故に、なかなか入り難い分野でもある。手元に置いた研究誌にゆっくりと入り込んでいくことで、身近な自然に親しめる方法が見つかることを期待したい。私のフィールドである羽坂林道での体験から、鳥類、樹木、草花、哺乳類、蝶等の写真を列挙し、その楽しみ方を記した。

キーワード：里山の自然、その楽しみ方

1. はじめに

自然に親しみながら自分自身の健康の維持管理を兼ねて、身近にある林道や河川堤防をゆっくりと散策することで、そこにある動植物をじっくりと楽しむことができる。道端の草木類の芽吹きと花々が目に付き、そこに群れる蝶や昆虫等や林内で見られる哺乳類にも時々出会う。それら全てが判る訳ではないが、自分の判る範囲で自然に対する意識を高めることに繋がる。

私は、約40年間にわたり近くの羽坂林道でウォーキングしながら、野鳥を中心にその自然を見つめてきた。これを例えにしてその自然の楽しみ方および種々の専門分野の研究誌の読み方等を理解し、ちょっとハイレベルな分野に親しめればと思う。そんな心を持って自然を見つめている方々が、新しい気づきと自然界での体験を糧にして、専門家の執筆した「研究誌」を読んでもみることをお勧めする。

2. 調査地の概略と調査方法

研究誌においては調査地と調査方法を明記する必要がある。調査地については、その地名・緯度・経度・自然環境等の概略を明記し、調査目的はその対象物と内容を出来るだけ明確にする。調査方法は具体的な内容を取得するために、継続的でバラツキの少ない手法で行うことが肝要である。

私が通い調査地としてきた羽坂林道は、福井県北部(嶺北地方)の越前海岸と福井市街区域との間に、ほぼ南北に連なる丹生山地があり、その主稜線(300m)へ通ずる林道の一つで、福井市羽坂町地係(36°03' N, 136°08' E)に位置している(図1)、この林道の自然環境は、低・中標高域(30~150m)では落葉低木や小高木等が生育し、中高標高域(150~300m)では落葉広葉樹等の二次林が広がり(図2, 3)、鳥類や蝶、哺乳類、昆虫類等の多くが生息している。

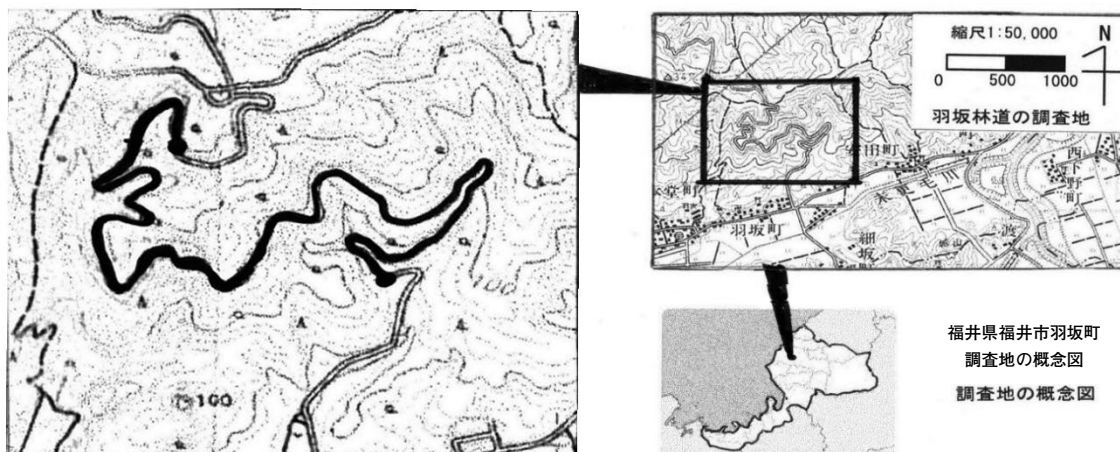


図1. 調査地の概念図



図2. 調査地の環境Ⅰ (2011年4月27日)



図3. 調査地の環境Ⅱ (2016年11月30日)

調査方法は、鳥類の範囲と野草や樹木の範囲とでは自ずと異なるが、鳥類での調査ルートでは片側25mで全幅50mとその上空を範囲とし、調査対象物の恒常的な範囲の維持に心がけることも重要である。道路脇の野草や樹木には、花の開花や結実等の時期の移ろいがあり、これらは種別の判断材料にもなるが、それぞれの時期にめぐり合わせることが重要である。鳥類では種別の確認と個体数を記録することが重要だが、遠近感の状況判断にも難しいことがある。

3. 出現種の和名と学名

研究誌ではその種の和名（英語の研究誌であれば英名）または学名（ラテン語）を付けて表記することが決まっている。また、学名は属名と種小名で構成されるが、生物の学名は世界共通であり、特に種小名は一度登録されれば混乱防止のため原則的に変更できない。それ故に感覚的に不自然な場合もあり、このような事例は鳥類の分類上にもある。鳥類の「コマドリ」と「アカヒゲ」は分類学的には近縁種であり、図鑑には隣同士に掲載されているが、これらの学名は「コマドリ (*Larvivora akahige*)」と「アカヒゲ (*Larvivora komadori*)」だが (*Larvivora*は属名)、*akahige*と*komadori* (これらは種小名) が取り違えて付けられており、これが変更できないのである。偉い学者の方

であってもこのようなことがあるので、一度図鑑で確かめてみてほしい。なお、本文で用いる鳥類の学名は日本鳥学会 (2024) に準拠している。

その和名も基本的には変更されないが、希に変更される場合もあるようだ。例えば真夏を過ぎる頃に咲き出す野草「ヘクソカズラ (*Paederia scandens*)」は、ツル性で草木に絡んで成長し、8月初旬に咲く花は、外面は白く内面は深紅色の筒状できれいな花だ (図4参照)。葉や茎を揉むとくさい異臭を放ち、ヘクソカズラの和名はこの異臭 (屁と糞) に由来していると思われるが、あまりにも品性の無い和名のため、近年では通称「サオトメカズラ」と呼ばれている。この花を「早乙女」に見立ててこのように呼んでいるようだが、我々一般人にはきれいな花にちなんで変更してはどうか? との思いもあるが、正式にはまだ変更されていない。

研究誌等の論文に示された表現について、執筆者が引用した部分には「引用文献」としてその発出元の文献名を記すことが求められている。論文中の種名については学名を併記するとともに、写真については種名・撮影年月日・撮影場所等を付けることも基本となっている。本文中に掲載した写真 (図4) について、撮影年月日は併記したが場所についてはそのほとんどが羽坂林道での撮影のため省略した。それ以外の撮影地の場合には、*印と番号を付して備考欄にその撮影地を記した。写真は探しやすいように五十音順に掲載した。なお、「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」(福井県安全環境部自然環境課, 2016) に指定されている種についてはその該当域を記した。

4. 自然の観察

1) 鳥類について

鳥類はその鳴き声を確かめながら種を同定し、個体数も出来るだけ記録する。さらに月間・年間のデータとしてまとめることも重要だ。羽坂林道周辺における約40年間での調査では、14目37科106種が記録された (柳町 2025)。これらの野鳥は留鳥・夏鳥・冬鳥・旅鳥に分類され、それらの代表種は次のとおりである。

【留鳥】(一年中観察され、季節的に短距離で移動する漂鳥も含まれる)

例 = シジュウカラ (*Parus cinereus*)、ヒヨドリ (*Hypsipetes amaurotis*)、ヤマガラ (*Sittiparus varius*)、コゲラ (*Yungipicus kizuki*)、ウグイス (*Horornis diphone*)、メジロ (*Zosterops japonicus*)、エナガ (*Aegithalos caudatus*)、アオゲラ (*Picus awokera*)、カケス (*Garrulus glandarius*)、キジバト (*Streptopelia orientalis*)、

イカル(*Eophona personata*), クマタカ(県域絶滅危惧Ⅰ類;*Nisaetus nipalensis*), ホオジロ(*Emberiza cioides*)等

留鳥の観察では, 3月初旬にウグイスの囀りが聞かれ春到来の感がある。4月が最盛期で5月下旬になると次第に少なくなり, 7月にはほとんど聞けなくなる。10月には下藪から地鳴きが聞かれるようになり, 早春の囀り(初音)が待ち遠しくなる。ウグイスはその生息範囲の標高差が大きく, 初夏には次第に深山へ移動する漂鳥で, 7月初旬には勝山市の県境にある赤兎山(1629m)ではウグイスだらけの大合唱だ。里地・里山では留鳥であるシジュウカラやヤマガラ, キジバト等は一年中間かれ, 山の住人のようだが, 近年はホオジロの姿と囀りがめっきり少なくなっているのが心配だ。

【夏鳥】(春季に南国から渡来し, ここで繁殖し, 秋季に南国へ渡去する種)

例=オオルリ(*Cyanoptila cyanomelana*), サンショウクイ(要注目;*Pericrocotus divaricatus*), キビタキ(*Ficedula narcissina*), クロツグミ(*Turdus cardis*), サンコウチョウ(*Terpsiphona atrocaudata*), サシバ(*Butastur indicus*)等

4月中旬にはオオルリとクロツグミの初鳴きが聞かれ, 初夏の到来を告げてくれるが, 繁殖行動が終わるとどの種も囀らなくなる。7月以降の林道はとても静かになって寂しい感があるが, サンショウクイは7月上旬でも空高く鳴きながら飛んでいるのがうれしい。

【冬鳥】(秋季に北国から渡来し, ここで越冬し, 春季に北国へ渡去する種)

例=ルリビタキ(地域個体群;*Tarsiger cyanurus*), ウソ(*Pyrrhula pyrrhula*), ツグミ(*Turdus eunomus*), マヒワ(*Spinus spinus*)等

静かな林道では微かな地鳴きを聴き分けながらの散策となる。ルリビタキの声が聞けたらその姿を探すのが楽しみだ。2月頃の穏やかな日には囀りが聞かれることもあり, その出会いへのときめき感がたまらない。

【旅鳥】(春季と秋季に南北への渡り途中に観察される種)

例=コマドリ(地域個体群), エゾビタキ(*Muscicapa griseisticta*)等

4月中旬になると沢筋からコマドリの囀りを待ちわびる毎日で, その初認には心が躍る。これもたった2週間ぐらいで, 連休の頃にはほとんど聞けなくなる。渡りの最盛期であっても, その個体そのものは1~2日ぐらいの滞在だろうか? 元気に渡ってほしい。

出現した106種のうち, 年間出現種数は40~64種(平均=53.6)となり, また各月の出現種数は12~23種(平均=17.0)となったが, その調査年による調査回数および季節変化によるバラツキも考えられる(柳町2025)。季節的には4月が最も多く, 留鳥に加えて残

留組の冬鳥と渡来したばかりの夏鳥の出現により23種位だ(柳町 2025)。最も少なくなるのは8月で12種位であるが, 鳥類そのものが少なくなるのではなく, 繁殖期が過ぎて囀らなくなるため, 我々にはその生息状況が判らないのである。これらの種の中には毎回出現する種もあれば, 数回しか出現しない種もあるが, 県域絶滅危惧種(福井県安全環境部自然環境課, 2016)に指定されている中の26種(I類:8種, II類6種, 準絶滅危惧:7種, 要注目:5種)が出現したこと(柳町 2025), および調査毎の少ないデータの積み重ねを40年間続けた結果が106種にもなったことはとても重要である。しかしながら, 現在の調査でも渡りの季節には, 聞いたことが無いような種の鳴き声を希に聞くことがある。おそらく更に北方への渡り途中の種とも思われ, この福井の地での種別判断ができず, 私の実力不足であり誠に残念である。

2) 樹木について

冬枯れの林では, 早春に芽吹きが見られる中で, 最も早く目に付くのは芽吹く前に黄色の花が咲くマンサク(*Hamamelis japonica*)だ。続いて薄いピンクのヤマザクラ(*Prunus jamasakura*)が咲き出し, クロモジ(*Lindera umbellata*)の芽吹きが目につく頃には, 近くからウグイスの鳴き声が聞かれ, 一気に早春の季節に入った感がある。緑色の葉枝に大きな黄色い花を付けたヤマブキ(*Kerria japonica*)がとても鮮やかで, その隣には白い花のモミジイチゴ(*Rubus palmatus*)も咲き揃い, 幼少期には黄色い実を摘んで食べるのが楽しみだった。杉に絡んで背高く咲き誇るヤマフジ(*Wisteria brachybotrys*)も満開になる頃は, ヤマザクラに代わってウワミズザクラ(*P. grayana*)の白い穂が出て, 若葉の緑と白いヤブデマリ(*Viburnum plicatum*)の花々が斜面の緑に彩りを添える頃は春本番となる。谷向こうに見える冬枯れの山稜にも, 白いかたまりがポツ, ポツと見え出してくるのがタムシバ(*Magnolia salicifolia*)で, 淡い萌黄色の線が日ごとにジワジワと上がってくるようになる。大きな白い花のホオノキ(*M. obovata*)と白いウツギ(*Deutzia crenata*)の穂があちこちで咲き出し, そろそろ深緑の季節になる。ちょっと遅れて咲くスイカズラ(*Lonicera japonica*)も白い花を咲かせ, 数日後には淡い黄色に変わり爽やかな香りがうれしい。夏至の頃になると淡くて赤いネムノキ(*Albizia julibrissin*)の花が大きな枝先いっぱい咲き誇っている。真夏が過ぎ, 秋季になっても紅葉らしいものはあまり見られないが, ミヤマガマズミ(*V. wrightii*)が小さな赤い実を沢山付けて秋本番となる。そんな中で目に付くムラサキシキブ(*Callicarpa japonica*)の実は, 深まる秋から初冬まで彩りを添えて初雪の頃までに残っていて, 野鳥たちの

餌となる。この初冬の頃には、静かな林道でヤマガラがエゴノキ (*Styrax japonica*) の実を啜ってきて、横枝でコツコツと叩いて食べている様子が見られ、深まる秋にホッとするとひとコマである。

3) 野草について

早春の林道では、道端に咲きだした野草の花々も日ごとに増えてくる。最も早く目に入るのがオオイヌノフグリ (*Veronica persica*) で、まだ2月下旬の冷え切った朝には霜に飾られた淡い水色の花が見られる。陽当たりの良い斜面にカタクリ (*Erythronium japonicum*) が咲き出してくるとギフチョウ (県域準絶滅危惧: *Luehdorfia japonica*) が舞っていないか気になるところで、まさに春を告げる代表種だ。まもなくその周辺では白いトキワイカリソウ (*Epimedium sempervirens*) もあちこちで咲き出し、花卉の形が錨に似ているのですぐ目につくが、嶺南地区ではピンク色の花を付けた亜種が多く見られる。これらの道端ではシャガ (*Iris japonica*) の群生が見られるようになると、まさに春本番となってくる。5月頃になると低木に絡まって咲くハンショウヅル (*Clematis ochotensis*) やツルニンジン (*Codonopsis lanceolata*) を見つけられるのもこの頃だが、長年見続けている林道でも初めて見つけた種となって、花の咲くタイミングが散策時と合わない気が付かないものだ。周りの樹木も日に日に新緑から深緑の最盛期となり、8月のお盆の頃にはヘクソカズラが草木に絡んで咲いているのが見られる。お盆を過ぎる頃は道端の花々も極端に少なくなるが、秋の道端には赤いミゾソバ (*Polygonum thunbergii*) やヒヨドリジョウゴ (*Solanum lyratum*) が咲き、晩秋には赤い実が連なっている上に、霜が降り初雪の頃にはこのシーズンの終わりを告げてくれる。

4) 哺乳類について

晩秋から早春の雑木林は見通しも良く、哺乳類が歩いているのをときどき見つけられる。数匹の子連れで歩いているイノシシ (*Sus scrofa*) を見つけたときは、写真には撮れなかったのが残念だった。林道脇の草むらでは鼻先で土を掘り起こしながらミミズ等を採餌した痕跡が見られ、この近くではけもの道が見られるのもこの頃だ。また林道の近くではカサゴと聞こえる音に静かにして観察していると、ニホンアナグマ (*Meles anakuma*) が近づいてくるがあった。目が悪いのか臭覚を頼りに足元近くまで寄って来ることがあり、その距離1m近くまで・・・、自分が彼等の世界へ入り込んだような気持にもなるひと時だった。ニホンカモシカ (*Capricornis crispus*) にはときどき出会うがほとんどが単独行動だ。私に気づいて少し離れると立ち止まって

こちらを振り返るのが常で、写真を撮るには絶好のチャンスだ。感覚的には林道で最もよく出会う哺乳類のように思う。ニホンジカ (*Cervus nippon*) には夜の林道では数匹の群れに出会うことが度々で、道脇にあるヒメアオキ (*Aucuba japonica*) やクサギ (*Clerodendron trichotomum*) の枝葉を食べているようで、枝先にその食痕が多く見られる。しかしヨウシュヤマゴボウ (*Phytolacca americana*) の草木だけは有毒植物らしく、そのほとんどが食べられずに残っている。枝・実・葉ともなかなかの食べ応えのある草木なのに、どうして有毒植物と判別しているのだろうか? 近くではカサカサと落ち葉の上を歩く小さなヤマネ (県域準絶滅危惧: *Glirulus japonicus*) や、樹木の枝が不自然な揺れ方をしているのに気づき、ニホンリス (*Sciurus lis*) を見つけたこともあった。

5) チョウ類について

林道の脇に咲く花々に集まるチョウ類を見つけ、すぐ双眼鏡で確認できるのも楽しみの一つだ。4月のギフチョウやルリタテハ (*Kaniska canace*) にはよく出会うのだが、その期間はとても短い。夏には林道に染み出している水を吸水しているミヤマカラスアゲハ (*Papilio maackii*) によく出会うし、8月頃に斜面に咲き揃っているクサギの花にモンキアゲハ (*Papilio helenus*) が多く集まってくる。秋分の頃には林道でタカの渡りを観察しているとアサギマダラ (*Parantica sita*) がフジバカマ (*Eupatorium fortunei*) やヒヨドリバナ (*Eupatorium chinense*) に集まって来る。他にも小型のシジミチョウ類等にも出会うが、写真撮影が難しく種の同定に繋がらないのが残念だ。

5. 終わりに

身近な自然を楽しむことは心を豊かにしてくれる。その支えが野鳥・樹木・野草等を慌てずゆっくりと知ること、そのレベルが徐々に上がって来る。これが老後の生き甲斐と健康づくりに繋がってくることに期待したい。今回の論文作成に当たって、福井市自然史博物館の学芸員である出口翔大博士、梅村信哉氏、柴田あかり博士にはそれぞれの専門分野においてご指導頂き、ここに名を記して感謝申し上げます。

引用文献

- 福井県安全環境部自然環境課編, 2016, 改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物2016, 福井県, 536p.
日本鳥学会, 2024, 日本鳥類目録改定第8版, 一般社団法人日本鳥学会, 506p.

柳町邦光, 2025, 羽坂林道における40年間の鳥類群
集. Ciconia (福井県自然保護センター研究報告),
28, 17-34.

**Satoyama Nature on Hazaka Woody Path in Fukui
City ~ Enjoying the Fields Nearby ~**

Kunimitsu YANAGIMACHI

Abstract

Becoming familiar with the nature around us and gaining new realizations and experiences in the natural world can help to foster a healthy mind and body, and by looking at the research reports of our predecessors, we can gain a deeper understanding of their contents. These research reports are in specialized fields, and because they represent cutting-edge phenomena, they can be quite difficult to enter. I hope that by slowly delving into the research journals at hand, we will find a way to become more familiar with the nature around us. Based on my experiences on the Hazaka Woody Path, my field, I have compiled a list of photographs of birds, trees, flowers, mammals, butterflies, and written about how to enjoy them.

— 鳥 類 — (22種)



アオゲラ (15.07.05)



イカル (17.02.07) *1



ウグイス (17.04.06)



ウン (97.02.24)



エナガ (92.11.19) *2



オオルリ (24.04.21)



カケス (20.10.20)



キジバト (98.09.05)



キビタキ (20.05.12)



クマタカ (19.12.08)
(県域絶滅危惧Ⅰ類)



クロツグミ (21.06.03)



コゲラ (02.12.23)



コマドリ (16.04.13) *4
(地域個体群)



サンショウクイ (07.05.14)
(要注目)

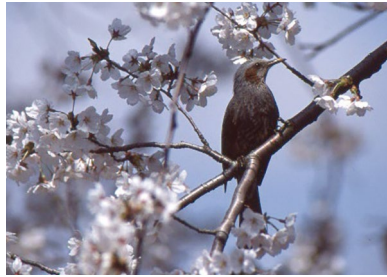


シジュウカラ (21.05.09)

図4. 福井市羽坂林道で観察される動植物



ツグミ (17.12.17) *2



ヒヨドリ (01.04.07) *3



ホオジロ (23.07.02) *2



マヒワ (96.11.02) *3



メジロ (95.12.19) *3



ヤマガラ (14.02.16) *3



ルリビタキ (97.02.22) *1
(地域個体群)

備考：写真の撮影地

表示無し＝福井市羽坂林道

(*番号)表示＝下記のとおり

*1＝福井市美山町 *2＝福井市灯豊町

*3＝福井市足羽山 *4＝福井市深谷町

— 樹 木 — (18種)



ウツギ (15.05.25)



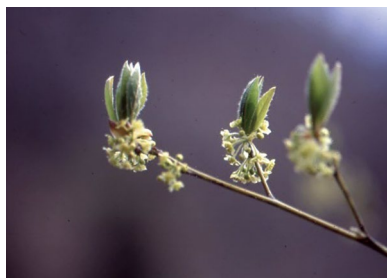
ウワミズザクラ (02.04.23)



エゴノキ (25.08.27)



クサギ (07.10.05)



クロモジ (02.03.29)



スイカズラ (08.05.31)

図4. (続き)



タムシバ(07.05.12)



ネムノキ(96.06.30)



ヒメアオキ(08.04.05)



ホオノキ(25.05.09)



マンサク(07.02.22)



ミヤマガズミ(07.11.08)



ムラサキシブ(17.10.31)



モミジイチゴ(08.04.10)



ヤブデマリ(08.05.04)



ヤマザクラ(02.03.16)



ヤマフジ(02.04.23)



ヤマブキ(02.04.06)

— 野草 — (9種)



オオイヌノフグリ(07.02.22)



カタクリ(09.04.11)



シャガ(13.04.23)

図4. (続き)



トキワイカリソウ (07.04.17)



ハンショウヅル (20.05.17)



ヒヨドリジョウゴ (01.12.31)



ヘクソカズラ (25.08.13)



ミゾソバ (24.10.31)



ヨウシュヤマゴボウ (24.08.16)

—— 哺乳類・蝶類 —— (5種+4種)



ニホンアナグマ (11.04.29)



ニホンカモシカ (17.03.25)



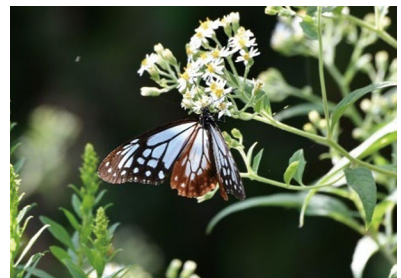
ニホンジカ (22.10.03)



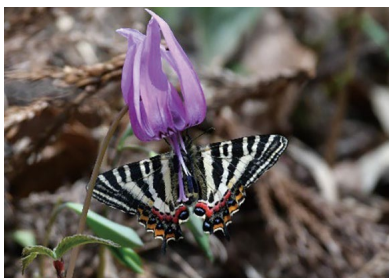
ニホンリス (92.05.11)



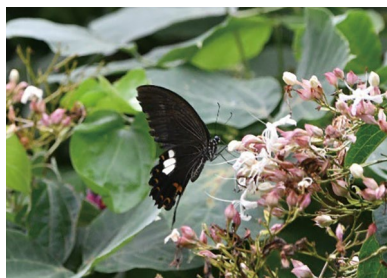
ヤマネ (94.05.03)
(県域準絶滅危惧)



アサギマダラ (17.09.24)



ギフチョウ (17.04.05)
(県域準絶滅危惧)



モンキアゲハ (25.09.04)



ルリタテハ (17.04.06)

図4. (続き)

